

「赤ちゃんのイメージ」に及ぼした影響の検討

広島大学医学部保健学科

田中義人

広島県立保健福祉短期大学看護学科

石川清美

■ はじめに

人間の誕生と死が人の目から隠され、病院の中で専門家によって処理されるようになって、四半世紀が経過する。子育ても、かつての村落共同体あるいは隣り近所や大家族の構成員全員の連帯責任ではなく、各家庭内での密室的作業となりつつある。母親が子どもをオンブして働いている姿や、仕事を中断して授乳している姿、あるいは弟妹の子守をしている姉妹の姿をみることはなくなった。専門家(保育所や幼稚園)に預けた方がはるかに能率的だからである。また、子どもたちは常に同年齢のグループ(学校など)に組織されており、家庭を除けば、異なる年齢層の子ども同士のふれあいはほとんどない。このような状況の中で、乳幼児にふれたことのない中学・高校生が増加している。赤ちゃんに全くふれたことがないまま結婚し、親となる人も少なくない。

広島県賀茂郡河内町では、平成4年度より「中学

生の赤ちゃんふれあい体験学習」を実施している。この体験学習が中学生にあたるインパクトは相当のものがあり、平成6年度研究報告書に報告した通りである1)。

今回は中学生の抱いている「赤ちゃんのイメージ」が、この「赤ちゃんふれあい体験学習」により、どう変化したかを、さらに詳しく検討した。

■ 研究方法

広島県賀茂郡河内町河内中学校の3年生男女85名を4班に分け、平成7年度に河内町が実施した乳児育児相談、乳児健診の場に参加させ、着衣の着脱、おむつ交換、授乳、お守りなどを行なわせた。これは1時間余りの母子とのふれあい体験である。体験前と体験直後の2回、「赤ちゃんについて」という題で感想文を書かせ、その内容を検討した。

前後の感想文がそろっている76名を対象に、体験前後の感想文の文字数の変化、赤ちゃんを形容

表1：体験前後での字数、Kバイト数の変化

	例数	前・字数	後・字数	字数増加率(倍)	前・Kバイト数	後・Kバイト数	Kバイト数増加率
生徒全員	76	59.3±57.1	174.9±100.7	6.2±11.3	34.8±24.5	70.0±37.6	2.6±1.9
女子全員	36	83.9±71.5	246.9±77.8	7.9±15.6	45.1±28.0	92.8±29.9	2.8±2.0
男子全員	40	37.1±24.8	110.0±70.3	4.6±4.9	25.6±16.3	49.5±31.6	2.4±1.8
PP群・女子	31	89.5±75.1	244.5±77.7	8.1±16.7	47.0±29.3	94.6±30.7	2.8±2.1
PP群・男子	11	56.1±29.9	140.4±67.6	3.3±2.5	33.0±25.3	46.6±20.4	1.1±2.2
NP群・女子	5	49.8±27.7	262.0±86.2	7.0±4.3	33.2±14.7	82.0±24.2	2.7±0.9
NP群・男子	22	30.6±19.1	117.6±68.4	6.0±6.0	22.5±10.8	58.7±36.8	3.0±2.0
NN群・男子	7	27.6±17.7	38.3±15.6	2.4±2.2	23.4±10.6	24.9±6.1	1.2±0.6

注) PP群：体験前からのポジティブイメージが体験後さらに増強された群
NP群：体験前のネガティブイメージが体験後にポジティブに変化した群
NN群：体験前のネガティブイメージが体験後も変化しなかった群

体験前も後も字数およびKバイト数に男女間の有意差あり ($p<0.0005$)
男女共に体験前後の字数およびKバイト数に有意差あり ($p<0.0005$)
体験前後での字数およびKバイト数の増加率に男女間の有意差なし
女子ではPP群とNP群で字数、Kバイト数、増加率に有意差なし
男子ではPP群とNP群で体験後の字数に有意差あり ($p<0.0005$)
PP群・男子とNN群で体験後の字数に有意差あり ($p<0.001$)
NP群・男子とNN群では、字数、Kバイト数、増加率に有意差なし

する語句の変化を検討した。さらに詳しく「体験学習」が生徒に与えたインパクト度を推測するために、生徒の感想文そのものをスキャナー (EPSON GT-9000) でコンピューターに Pict. として取り込み、Adobe Photoshop 3.0J で処理した。取り込みは256階調グレー、解像度100dpiで、倍率100%とした。これをもとに、文字の大きさ、勢い、筆圧(字の濃さ)、文字数の変化を分析した。その総合的な指標として、取り込んだ画像のメモリー数 (Kバ

イト数) を用いた。

■ 研究結果

1. 感想文の文字数、Kバイト数の変化

表1に示すように、体験前、体験後共に、女子の方が男子より有意に文字数、Kバイト数が多かった ($p < 0.0005$)。しかし、男女共に体験前に比較し体験後に文字数、Kバイト数が有意に増加しており

表2：体験前からのポジティブイメージが体験後さらに増強された群

No.	生徒	性	前・字数	後・字数	字数増加率 (倍)	前・Kバイト	後・Kバイト	Kバイト数増加率
1	R.I.	女	15	130	8.7	19	48	2.5
2	Y.K.	女	17	215	12.6	22	93	4.2
3	M.K.	女	7	180	25.7	17	75	4.4
4	K.S.	女	65	200	3.1	32	82	2.6
5	M.N.	女	156	258	1.7	82	123	1.5
6	M.H.	女	54	310	5.7	23	103	4.5
7	H.H.	女	40	355	8.9	40	148	3.7
8	S.H.	女	37	225	6.1	24	91	3.8
9	N.F.	女	60	255	4.3	31	80	2.6
10	A.M.	女	260	245	0.9	83	77	0.9
11	M.M.	女	125	220	1.8	69	111	1.6
12	M.M.	女	165	185	1.1	90	138	1.5
13	Y.I.	女	43	180	4.2	22	67	3
14	S.O.	女	26	280	10.8	19	106	5.6
15	M.S.	女	95	365	3.8	43	115	2.7
16	A.F.	女	78	300	3.8	31	89	2.9
17	H.M.	女	155	355	2.3	59	138	2.3
18	Y.Y.	女	60	280	4.7	55	110	2
19	T.Y.	女	84	280	3.3	40	72	1.8
20	M.W.	女	47	100	2.1	38	47	1.2
21	Y.A.	女	93	145	1.6	71	79	1.1
22	Y.A.	女	132	200	1.5	82	58	0.7
23	S.I.	女	80	170	2.1	59	61	1
24	S.O.	女	150	410	2.7	74	161	2.2
25	C.O.	女	250	240	1	77	96	1.2
26	K.O.	女	290	250	0.9	137	95	0.7
27	M.K.	女	75	265	3.5	35	108	3.1
28	M.T.	女	27	270	10	33	123	3.7
29	M.H.	女	75	225	3	25	56	2.2
30	M.M.	女	8	112	14	14	51	3.6
31	S.M.	女	4	375	93.8	11	131	11.9
	女子の平均値		89.5	244.5	8.1	47	94.6	2.8
	SD		75.1	77.7	16.7	29.3	30.7	2.1
32	S.K.	男	44	250	5.7	15	36	2.4
33	Y.S.	男	65	230	3.5	25	84	3.4
34	J.T.	男	50	175	3.5	20	72	3.6
35	K.T.	男	9	81	9	16	36	2.3
36	T.H.	男	125	125	1	104	36	0.3
37	Y.M.	男	68	130	1.9	27	40	1.5
38	K.O.	男	75	78	1	40	27	0.7
39	S.O.	男	34	21	0.6	36	22	0.6
40	S.K.	男	37	174	4.7	18	58	3.2
41	T.S.	男	68	165	2.4	41	68	1.7
42	J.S.	男	42	115	2.7	21	34	1.6
	男子の平均値		56.1	140.4	3.3	33	46.6	1.1
	SD		29.9	67.6	2.5	25.3	20.4	2.2

表3：体験前のネガティブイメージが体験後にポジティブに変化した群

No.	生徒	性	前・字数	後・字数	字数増加率(倍)	前・Kバイト	後・Kバイト	Kバイト数増加率
43	Y.M.	女	12	160	13.3	13	49	3.8
44	N.A.	女	60	190	3.2	30	67	2.2
45	M.M.	女	41	365	8.9	28	97	3.5
46	Y.Y.	女	48	320	6.7	50	110	2.2
47	H.K.	女	88	275	3.1	45	87	1.9
	女子の平均値		49.8	262	7	33.2	82	2.7
	SD		27.7	86.2	4.3	14.7	24.2	0.9
48	M.K.	男	70	260	3.7	42	129	3.1
49	M.T.	男	25	87	3.5	26	55	2.1
50	K.C.	男	8	120	15	11	49	4.5
51	N.T.	男	40	210	5.3	20	140	7
52	T.N.	男	44	65	1.5	23	32	1.4
53	G.F.	男	9	200	22.2	18	71	3.9
54	H.M.	男	14	235	16.8	16	135	8.4
55	K.Y.	男	45	45	1	29	30	1
56	Y.I.	男	20	31	1.6	16	16	1
57	S.O.	男	55	155	2.8	35	42	1.2
58	H.O.	男	40	75	1.9	27	38	1.4
59	K.K.	男	60	118	2	34	55	1.6
60	H.S.	男	46	205	4.5	27	88	3.3
61	M.N.	男	43	129	3	47	86	1.8
62	K.H.	男	11	95	8.6	14	34	2.4
63	M.Y.	男	11	26	2.4	9	19	2.1
64	K.A.	男	19	63	3.3	13	27	2.1
65	T.K.	男	40	95	2.4	22	39	1.8
66	S.K.	男	8	135	16.9	9	56	6.2
67	H.K.	男	38	90	2.4	33	58	1.8
68	H.F.	男	23	120	5.2	15	71	4.7
69	T.M.	男	4	28	7	10	22	2.2
	男子の平均値		30.6	117.6	6	22.5	58.7	3
	SD		19.1	68.4	6	10.8	36.8	2

($p < 0.0005$)、その増加率には男女に有意差はなかった。

2. 赤ちゃんを形容する語句の変化

生徒が赤ちゃんを形容している語句を検討し、「かわいい、たのしい、うれしい、あたたかい、すき」などのポジティブな語句、「うるさい、うっとうしい、いや、わがまま、めいわく、めんどうだ、きらい、ふれたくない」などのネガティブな語句、「ちいさい、よわい、歩けない、しゃべれない、よくなる」などのニュートラルな語句に分類した。

体験前の感想文にポジティブな語句が1つでも含まれているものをP群とし、ポジティブな語句が全く含まれていないものをN群とすると、P群が42名(55.3%)、N群が34名(44.7%)であった。

P群の42名の内訳は、女子が31名(女子全員の86.1%)、男子が11名(男子全員の27.5%)であった。このうち、体験後の感想文がP群であったものをPP群、体験後にN群に変化したものをPN群とすると、PP群が42名でPN群は0名であった。しかも、このPP群はいずれも体験後にポジティブな語句が増加していた(表1、表2、図1)。

表4：体験前のネガティブイメージが体験後も変化しなかった群

No.	生徒	性	前・字数	後・字数	字数増加率(倍)	前・Kバイト	後・Kバイト	Kバイト数増加率
70	N.H.	男	50	58	1.2	36	33	0.9
71	H.M.	男	40	36	0.9	26	29	1.1
72	F.F.	男	16	21	1.3	22	23	1
73	H.A.	男	6	38	6.3	12	16	1.3
74	K.K.	男	43	19	0.4	38	18	0.5
75	R.H.	男	30	58	1.9	18	28	1.6
76	Y.Y.	男	8	38	4.8	12	27	2.3
	平均値		27.6	38.3	2.4	23.4	24.9	1.2
	SD		17.7	15.6	2.2	10.6	6.1	0.6

図3：NN群の感想文抜粋（縮尺 85/100）

No.70. N.H. 男子・体験前

・お礼まではない
・すくなく
・手間がかかる
・向かいたいかわからない
・またいじりたくない

No.70. N.H. 男子・体験後

はじめてだったので、ほんとは不安にもできなかった。
むしろ楽しかったのでがなしかた。
なかられたので、楽しかった。

No.71. H.M. 男子・体験前

・すくなく しょう、とみしい。手間がかかる
・小さい
・おもしろいし、だいたいこねるのさきり

No.71. H.M. 男子・体験後

・だくとキ、きんちゅうした。
・おもしろいけど、どうしていいかわからなくて
とまどった。

No.73. H.A. 男子・体験前

うたかた

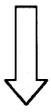
No.73. H.A. 男子・体験後

おもしろいけど、どうしていいかわからなくて
とまどった。

■ 参考文献

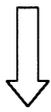
1) 田中義人：「赤ちゃんふれあい体験学習」の中学

生に与えたインパクト度の検討. 厚生省心身障害
研究. 望まない妊娠等の防止に関する研究. 平
成6年度研究報告. 平成7年3月. pp.295-303.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

人間の誕生と死が人の目から隠され、病院の中で専門家によって処理されるようになって、四半世紀が経過する。子育ても、かつての村落共同体あるいは隣り近所や大家族の構成員全員の連帯責任ではなく、各家庭内での密室的作業となりつつある。母親が子どもをオンブして働いている姿や、仕事を中断して授乳している姿、あるいは弟妹の子守をしている兄姉の姿をみることはなくなった。専門家(保育所や幼稚園)に預けた方がはるかに能率的だからである。また、子どもたちは常に同年齢のグループ(学校など)に組織されており、家庭を除けば、異なる年齢層の子ども同士のふれあいはほとんどない。このような状況の中で、乳幼児にふれたことのない中学・高校生が増加している。赤ちゃんに全くふれたことがないまま結婚し、親となる人も少なくない。

広島県賀茂郡河内町では、平成4年度より「中学生の赤ちゃんふれあい体験学習」を実施している。この体験学習が中学生にあたえるインパクトは相当のものがあ、平成6年度研究報告書に報告した通りである¹⁾。

今回は中学生の抱いている「赤ちゃんのイメージ」が、この「赤ちゃんふれあい体験学習」により、どう変化したかを、さらに詳しく検討した。